

ケアに満ちた地域社会をつくろう

「子ども・若者ケアラー」の現状と課題

日時	2022年 12月7日（水）13：00～15：30
開催方法	会場・オンライン（YouTubeライブ）
場所	スペース・オルタ（新横浜駅徒歩8分）
申し込み	専用フォームで受付（裏面参照） <参加費無料>

基調講演



子ども・若者ケアラー支援の現状と課題

講師：斎藤真緒氏（立命館大学産業社会学部教授）

「子ども・若者ケアラー」の長期に及ぶケアは、子ども・若者の現時点の生活だけではなく、将来の人生設計全体に計り知れない影響を及ぼします。切れ目ない、長期的かつ一貫した支援が必要であるとする視点から、当事者の声を出発点にした、ケアラー支援の課題と今後についてご意見をいただきます。

鼎談

市民参加による子ども・若者支援の活性化に向けて

見えにくいヤングケアラー問題には、親や祖父母、きょうだいの病気や障がい、さらには貧困など様々な家庭の事情が背景にあると言えます。そうした環境に育ち、生活をしている子ども・若者たちが生き生きと生活し、進学、就職、社会人になるために市民社会がどのように支援、連帯していったらよいのか。協同組合をはじめとした団体や企業、そして行政等との協働によるヤングケアラー支援の活性化に向け、ともに考える場とします。

コーディネーター



中嶋圭子氏

日本ケアラー連盟理事

パネラー



沖村有希子氏

若者ケアラー
福祉サービス会社代表

パネラー

斎藤真緒氏

立命館大学教授

◆格差が広がる生きづらい社会

2000年に介護保険制度がスタートし、「介護の社会化」がめざされましたが、65歳以上の高齢者が29.1%を超えるなか(2021年9月)、財源不足等を理由に介護保険でカバーできる範囲は徐々に狭められ、家族介護の負担は増大傾向にあります。

女性の就業率が上昇しましたが、依然家族ケアが主流で特にその担い手が女性という日本の社会規範から、介護離職や介護に伴う貧困問題等が生じています。さらに女性労働は「非正規雇用」が多く、年齢が上がるほど低賃金で不安定な働き方となりやすい傾向があります。ワーキングプア、うつ、引きこもり、社会的孤立、虐待、自殺、そして孤育てといった従来の政策手法では対応できない問題が顕在化してきています。

新型コロナウイルス感染症は格差社会の「生きにくさ」を顕在化させ、最近では物価高騰がこの問題に追い打ちをかけています。

◆家事やケアを担う子ども・若者たち

こうした中、市民や協同組合によるひとり親家庭を始めとした、要支援世帯の子ども等を対象に、食事や食品・食材、学用品、生活必需品の提供を行う子ども食堂やフードパントリー等を実施する活動が増えています。子どもの貧困や孤独・孤立への支援が恒常的に必要な状況にあるといえるでしょう。

2014年頃からヤングケアラーが注目されるようになりました。ケアが必要な家族の世話をしている18歳未満の子どもを対象としています。心身の健康や学校生活、学力などに影響を及ぼすことが危惧されています。こうした子どもを取巻く状況は居場所やダブルケアカフェ、市民基金やファンドなどの活動現場からも、少しずつ明らかになってきました。最近では生活支援、就労準備支援の現場などでも、生活保護世帯等で親やきょうだいに病気や障がいのある子ども・若者が多いことなどから、教育機会の喪失や社会的孤独等が社会問題として見えてきました。

◆「研究フォーラム2022」開催の目的

公的支援の手が及ばない制度の狭間にある人たちのために、ケアのセーフティネットを社会に生み出していく必要があります。「地域包括ケア」という言葉は耳障りがいい一方、地域もしくは家族が解決すべき課題に押し戻されてしまうことも懸念されます。また、家族や個人の問題とする社会規範が「ケアラー問題」を引き起こしています。特に、本来は親や社会から必要なケアを受けて社会人としての力を形成していく過程にある子どもがケアを担うヤングケアラー問題は、本人に与える影響においても、社会的な損失においても深刻であるといわれています。

子ども・若者ケアラーにアンテナを張り、どんな問題があるのか、何が問題かを知るとともに、市民による地域でのたすけあい・支えあいを広げていきたいと考えます。市民の参加や活動が行政を動かす、制度を変えていく一歩にもなります。非営利・協同の市民の力で、「生きやすい社会」を考えつっていくために、今年は「子ども・若者ケアラー」の問題を市民参加で解決していく契機にすることを目的に研究フォーラムを開催します。

申し込み方法

- ①右記二次元コードより申込みフォームへアクセスして、必要項目を記入の上送信してください。
 - ②URL <https://onl.sc/CaqLhTq> にアクセスして必要項目を記入の上送信してください。
- ※申し込み後、申し込み完了メールが届きます。その後、オンライン参加の方には視聴用URLを事務局よりお送りします。



主催 「研究フォーラム2022」実行委員会

実行委員会参加団体：中央労働金庫神奈川県本部 こくみん共済coop<全労済>神奈川推進本部
神奈川県漁業協同組合 神奈川県生活協同組合連合会 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)
公益社団法人神奈川県地方自治研究センター 生活クラブ生活協同組合 福祉クラブ生活協同組合
神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会 NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会 オルタスクエア株式会社
社会福祉法人いきいき福祉会 認定NPO法人WE21ジャパン 女性・市民コミュニティバンク
NPO法人参加型システム研究所

協賛：生活協同組合ユニーコープ 生活協同組合パルシステム神奈川 神奈川県労働者福祉協議会
JA神奈川県中央会 生活クラブ生協・東京 生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会
後援：神奈川県 横浜市 川崎市